

第8章 ビジョンの推進のために

第2次狭山市水道ビジョンの実施をより確実なものとするため、計画策定後もフォローアップを図っていくことが重要です。

8.1 ビジョン推進の基本的な視点

(1) 挑戦

新たな事業環境や社会情勢の変化に順応し適応すべく、自助努力の継続に加えて、「挑戦」する意識・姿勢をもって取り組みます

水道の理想像における「安全」、「強靱」、「持続」の概念は、これまでの水道においても重要な概念であり、常に理想を求めて様々な取り組みを進めてきました。しかし、これからの水道は、外部環境、内部環境ともに、これまでとは全く異なる状況の下、水の供給を行わなければならない、実現方策で示したそれぞれの事項の推進は本市が単独で解決できない課題もあります。

水道事業が理想の姿をもって、利用者の信頼を得て水を供給し続けるために、これまでの右肩上がりの常識を排除し、新たな事業環境や社会情勢の変化に順応し適応すべく、自助努力の継続に加えて「挑戦」する意識・姿勢をもって取り組みます。

(2) 連携

水道事業として自らが果たすべき使命、置かれた状況を十分に認識しつつ、関係者との「連携」により、効果的に方策を推進します

水道事業における実現方策の推進にあたり、単独での対応に限界がある場合には、近隣の水道事業者や県営水道、関係行政機関、民間事業者等立場を越えて連携することが必要となってきます。水道事業者は、水道サービスを受ける利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用者の理解と協力を得て方策に取り組む意識・姿勢が必要です。

本市は、挑戦の意識・姿勢を持ち、自らが果たすべき使命や、その置かれた状況を十分に認識しつつ、関係者との「連携」により相乗的効果の発現、効率性の向上、新たな発想による展開を図ること等により、効果的に方策を推進します。

8.2 PDCA サイクルの活用

事業は、業務指標（PI）等に基づき分析を行い、サービスの水準・経営状況等について継続的に評価します。

第2次狭山市水道ビジョンは、PDCA サイクル(Plan:計画、Do:実施、Check:検証、Act:見直し・改善)を活用し、計画の進捗管理を持続的に行うとともに、5年を経過した時点で計画を評価します。

上位計画や県水供給単価、社会情勢の変化等により、計画と実績の乖離が著しい場合は、ビジョンの見直しを行います。

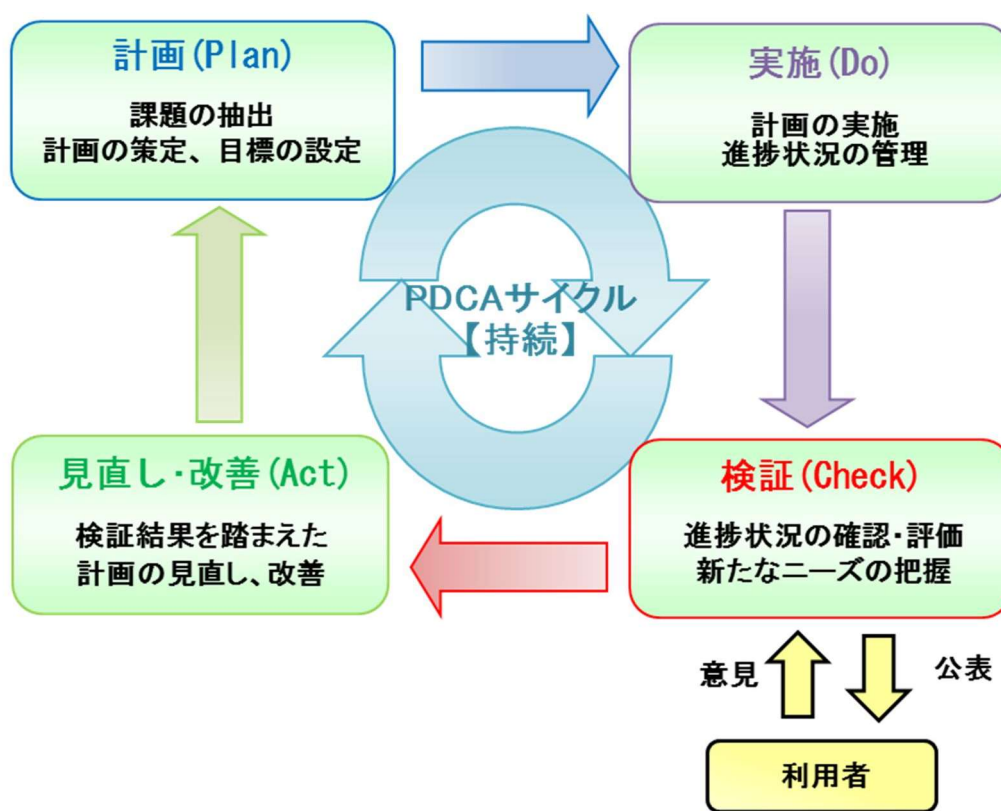


図 8-1 PDCA サイクル